

【出典】

UN Statistical Commission, "Report of the Friends of the Chair of the Statistical Commission on an assessment of the statistical indicators derived from United Nations summit meetings: Note by the Secretary-General" (E/CN.3/2002/26, 18 December, 2001)

【凡例】

(1) Minimum National Social Data Set (MNSDS): 1999年に国連統計委員会第29回会合で採択された、最近の国連の全世界会合・サミットの決議等の達成度を測定するための指標群

(2) International Development Goals (IDG): 本文参照

(3) Basic Social Services for All (BSSA): 1997年に国連のACC（調整に関する行政委員会）の「万人のための基礎的な社会サービス」タスク・フォースが採択した最近の国連の全世界会合・サミットの決議等の達成度を測定するための指標群

(4) Common country Assessment (CCA): 本文参照

(5) Millennium Declaration (road map): 本文参照

(6) Indicators of Sustainable Development (CSD Indicators): 1995年に国連の持続可能な開発委員会で採択された、社会、環境、制度等の開発指標群

《原注》

a/ Part of the CSD indicator “ immunization against infectious childhood diseases ”, whose definition includes “ the proportion of children immunized against diphtheria, tetanus, pertussis, measles, poliomyelitis, tuberculosis and hepatitis B before their first birthday. ”

CSD指標「伝染性の小児病に対する免疫」の一部。これらの定義には、「最初の誕生日の前、にジフテリア、破傷風、百日咳、はしか、脊髄性小児B型肝炎の免疫を与えられた子供の割合」を含む。

b/ Not part of the proposed set of 36 Millennium Declaration (road map) indicators. However, road map indicator no. 28 [carbon dioxide emissions per capita] includes in addition “ two figures of global atmospheric pollution: ozone depletion and the accumulation of global warming gases. ”

提案されている36のミレニアム宣言（ロードマップ）指標セットの一部ではない。しかし、ロードマップ指標のNo.28(一人当たり二酸化炭素排出量)は、以下の2つの数値を含む。「世界規模の大気汚染に係る2数値。オゾンの空洞化及び世界的な温暖な大気の蓄積。」

c/ The CCA indicator is “ decadal growth rate of GNP per capita. ”

CCA指標では、「一人当たりGNPの10年間の成長率」

d/ The IDG indicator is “ ratio of girls to boys in primary and secondary education combined. ”

IDG指標では、「初等中等一貫教育における男子に対する女子の比率」

e/ The MDG indicator is “ ratio of girls to boys in primary, secondary and tertiary education. ”

MDG指標では、「初等、中等及び高等教育における男子に対する女子の比率」

f/ As part of the indicator “ crime rates. ”

指標「犯罪率」の一部として。

《訳注》

枠内の網掛けは、日本国内における対応状況を示す（オレンジ：対応可、黄色：一部対応可）

（対応する指標がない理由）

A： 日本においては、指標を作成する政策上の必要性がないか、経済発展・社会状況の変化等により、データ収集の必要性がなく

B： 表に掲載されている指標の定義が不明確。明確な定義があれば提供の可能性あり。

C： 日本において、政策上の必要性はあるものと思われるが、諸般の理由から、データ未収集、指標未作成。

D： 業界団体等でデータを保有している可能性あり。

E： その他・不詳

(この部分は、総務省、内閣府、法務省、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、環境省及び日本銀行の協力により作成。
総務省については統計局所掌の場合は関係統計の名称を併記。統計局以外の所掌の場合には部局名を併記。)